

金鷹山

若宮八幡社は、寛和元年(985)御創建以来、本年1,040年を迎えた

令和7年(2025)4月1日発行

通巻第23号

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電 話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。
Instagramはじめました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう

社報「金鷹山」第二十三号の目次

- ◇1頁 令和七年度 若宮八幡社改選総代名簿
御田植祭のお知らせ
大分県無形民俗文化財 御田植祭復興への歩み
観月祭に「浦安の舞」奉納を目指して
御創建一、〇四〇年奉祝記念事案
- ◇2頁 末社「照月八幡社」(鴨川区鎮座)の改修工事
奉斎会だより(常若講座について)
若宮八幡社奉斎会の入会方法について
- ◇3頁
- ◇4頁 奉斎会大祭と
令和七年度総会について
夏越大祓斎行のお知らせ
御創建一、〇四〇年
奉祝記念事案について
- ◇5頁 恒例神事の報告について
昭和改元百年を考える
編集後記
- ◇6頁



大分県無形民俗文化財 御田植祭

今春の恒例神事予告

大分県無形民俗文化財 御田植祭のお知らせ

日時 4月6日(日) 午後2時

場所 若宮八幡社本殿前の齋庭^{ゆにわ}
(拝観無料・予約など不要です)

雨天時は拝殿の中で行います

この日のために関係者一同諸準備を取り進めてまいりましたので
皆様方のお越しを心よりお待ち申し上げます

若宮八幡社神職・総代名簿

宮 司	紀田兼宣
総 代 長	矢野守光 〈宮司区〉宮司、馬場尾、守末、中ノ原、菅尾
総 代	本多泰久 〈宗近区〉宗近、錦江、杉山、東下司、西下司、下原、中平
総 代	井上 剛 〈南台西区〉南台西、南台東、北台、西上、仲町、天満、弓町
総 代	岩尾重義 〈魚町区〉魚町、錦城、北浜、中央、城山、谷町、塩田、据場
総 代	福村 滋 〈西新町区〉西新町、古野、札ノ辻、北祇園、南祇園、煙硝倉
総 代	阿部俊治 〈船部区〉船部、大片平
総 代	阿部幸蔵 〈西溝井区〉西溝井、二ノ坂
総 代	山本英雄 〈東溝井区〉東溝井、中津屋
総 代	矢野 勲 〈岩谷区〉岩谷、鴨川

大分県無形民俗文化財

御田植祭復興への歩み

復興に向けて関係者一同は心を込めて
諸準備を取り進めてきました

感染症の対策を講ずるために永らく奉納が中止されていた大分県無形民俗文化財『御田植祭』ですが、感染症の終息に伴い、再び奉納戴く旨を打診しておりましたが、地元中津屋区の諸事情により引き続き中止の状況が続いております。

このことを受けて、地元の中津屋区のみで奉納することが困難であるとの申し入れにより、杵築市文化財窓口にご相談しながら、若宮八幡社をはじめ、関係行政区、近隣小学校及び有識者による『御田植祭復興委員会』を組織編成し、昨年来より数回

に亘る審議打ち合わせを経て、来る四月六日(日)に久しぶりに奉納が為される旨、現在関係者一同で諸準備を取り進めております。

実際に奉仕する方々は、地元の中津屋区の人たちは勿論のこと、市内各所から広く募集を行い、三回に亘り若宮八幡社で当日奉納される本殿前の齋庭で練習会を行ってまいりました。

1頁にありますが、四月六日(日)午後2時から奉納されますので、皆様方のご来場を心よりお待ち申し上げます。《拝観無料 予約等不要です》



練習会(早乙女)



練習会(牛馬)

観月祭に「浦安の舞」奉納を目指して

毎月2回 お稽古に励んでおります

あめつちの

神にぞ祈る

朝風の

海の如くに

波立たぬ世を



浦安の舞

上の和歌は、昭和天皇が昭和八年の歌会始で「朝海(あしたのうみ)」という御題で世の太平を祈って御詠みになられた御製で、朝風の海のように穏やかで平和な世の中がいつまでも続きま

すように八百萬の神々にお祈りしますとの意味が込められております。この御製をもとに、昭和十五年に皇紀二千六百年を奉祝して、時の宮内省楽長多忠朝(おおの ただとも)氏により作曲振付けされたのが「浦安の舞」です。昭和十五年に全国の神社で一斉に奉納されてより、

今日でも神前神楽の代表的楽曲として多くの神社で舞われております。

当社に於きましても、昨年の観月祭で奉納致しましたが、舞姫が居ない形式でしたので、今年は正式に舞姫が奉納することを目標としておりました。中学一年生になる女の子お二人が希望されましたので、秋の観月祭に向けて練習会を行っております。

秋の観月祭は、次回の社報「第二十四号 九月一日発行」で公告しますので、皆様方のご来場を心よりお待ち申し上げます。

御創建1,040年奉祝記念事業

末社「照月八幡社」(鴨川区鎮座)の改修工事

先行して昨年暮れに竣工致しました

若宮八幡社は、寛和元年(西暦九八五年)に、京都石清水八幡宮から四柱の神様を勧請し、八坂川・錦江橋の近く浜田社にご鎮座されたことに端を発し、爾来三度のご遷座を経て現在の金鷹山に至りました。本年は、そのご創建から丁度一、〇四〇年という嘉年を迎え、奉祝する各事案を取り進めて居るところであります。先立つ形で昨年に鴨川に鎮座する末社「照月八幡社」の改修工事を行いました。

そのため、奉祝の記念事業として改修工事を行うには、若宮八幡社の自己資金で取り進めるしか方途はなく、関係者は忸怩たる思いでございました。杵築市出身の方で、その後上京されました方(故人)からの寄付金により着工出来るように事態が進み、この度一、〇四〇年を奉祝する事案の第一号として竣工致しました。長年の風雨による社殿の傷みが酷いため、八幡大神様には昨秋に若宮八幡社へ仮遷座申し上げ、杵築市内の建築業者による改修を行い、旧臘に本遷座により八幡大神様を元つ社殿にお遷し申し上げます。尚、ほかのご創建一、〇四〇年奉祝事案は四頁に記載されております。



竣工後



施工前

奉斎会だより

年に4回「常若講座」を開催して
最古の歴史書「古事記」を紐解いて勉強してまいります

若宮八幡社奉斎会の事業の一つとして、「常若講座」といって「常若」とは、伊勢神宮の二十年に一度の式年遷宮に代表されるように、「常に瑞々しく若々としている」という神道の基本理念のことであり、その理念に基づいて年に数回の勉強会を開催しているのが本講座で、今まで二回の講座が開催されました。

〈第1回常若講座〉

【若宮八幡社の御祭神と夏越大祓 茅の輪の由来】

◆若宮八幡社にお祀りされている四柱の神様について勉強しました

◆日本書紀に記載されている「三大神勅」について勉強しました

◆六月三十日に毎年行われる夏越大祓で設営される「大茅の輪」について記載のある備後國風土記をもとに勉強しました

今日の短歌

【昭和天皇御製】

天地の神にぞ祈る朝風の

海に如くに 波立たぬ世を

第1回常若講座 資料

講座① 備後國風土記に見る茅の輪の由来

【現代語訳文】
備後國風土記に記されている「茅の輪」は、伊勢神宮の式年遷宮に代表されるように、「常に瑞々しく若々としている」という神道の基本理念のことであり、その理念に基づいて年に数回の勉強会を開催しているのが本講座で、今まで二回の講座が開催されました。

常若講座資料



天孫降臨

〈第2回常若講座〉

【古事記を読む 其の1】

◆神社検定の過去問題からクイズを出して神社や式年遷宮について勉強しました

◆日本最古の歴史書である「古事記」を紐解いて勉強しました

※講座の解説について

△三大神勅

①天壤無窮②宝鏡奉斎③齋庭稻穂
からなる3つのお言葉

△茅の輪

八坂川に自生する「茅」で直径約2mの輪を作り、それを三度くぐることで半年間の罪や穢れを祓います

△備後國風土記

奈良時代に地方の文化風土や地勢などを国ごとに記録編纂された報告書物で、備後國風土記も残っております

△古事記

和銅五年(西暦七十二年)に編纂され、上・中・下の3巻で構成。これから上巻のうち国生みから初代神武天皇のご即位までを抜粋しながら勉強していきます

若宮八幡社奉斎会の入会方法について

当社公式HP「金鷹山 若宮八幡社」から検索して入力の上、お申し込み下さい



若宮八幡社奉斎会設立の経緯と入会のお勧め

令和6年7月28日(日)若宮八幡社御本殿において、「若宮八幡社奉斎会設立大祭」が斎行され、引き続き「若宮八幡社奉斎会設立総会」が開催され「若宮八幡社奉斎会」は発会されました。

この若宮八幡社奉斎会は、寛和元年(西暦985年)に、当社が下司の浜田社として御創建以来の信仰・歴史・伝統を守り、所蔵の文化財を後世に伝え、温故知新の精神を以て、神社の興隆を図るために必要な事業を企画し、実施することを目的として、設立発会された組織であります。

設立当初は、その主旨に賛同された会員で発会されましたが、その後会員相互の広報等により、少しずつ会

●年会費(入会金徴収なし)

正会員	家族会員 (正会員の同居する家族)
年額 5,000 円	年額 2,000 円

●入会方法

別添する「入会申込票」をダウンロード載き、申込票に芳名・生年月日・住所等をご記入ください。

「入会申込票」をダウンロード (docx)

PCで入力の上、Eメールにて送信の場合は下記Eメールアドレスまで

info@kintakayama.com

持参・郵送もしくはFAXで送信の場合は下記をご参照ください。

若宮八幡社事務所(奉斎会事務局)
〒873-0004 大分県杵築市大字宮336番地

kintakayama.com

- 若宮八幡社奉斎会への入会方法
- ①社頭にある入会のお勧め資料一式により申し込み方法と
- ②当社公式HPからデータを入力して申し込み方法
- の2通りがありますが、インターネットを利用した②が自宅で簡単に出来ると思います。
- 年会費について
- 《正会員 五〇〇〇円》
- 本会の目的に賛同する個人団体
- 《家族会員 二〇〇〇円》
- 本会の目的に賛同する正会員の同居する家族
- (入会費は不要です)
- 照会先・送信先
- 電話 0978(62)3148
- FAX 0978(69)7035
- メール info@kintakayama.com

若宮八幡社奉斎会 入会申込票

令和 年 月 日	
芳名(姓)	(名)
生年月日	年 月 日生まれ
会社名	
設立日	年 月 日設立
住所	
連絡先	電話 / mail
お届け先	☐ 自宅 ☐ 会社 ☐ その他
会員種別	☐ 正会員(年会費5,000円) ☐ 家族会員(年会費2,000円)
事務局欄	郵送先 PC入力 会員種 芳名 年会費
送信先 FAX 0978-69-7035 (宮司携帯 080-5503-3488)	

- 【入会申込票について】
- 公式HP「金鷹山 若宮八幡社」から「奉斎会」の項目を検索、「入会申込票」に必要事項を入力して
- ①メールに添付して送信
- ②印刷した申込票をFAX
- ③印刷した申込票を持参
- ④印刷した申込票を郵送
- のいずれかで申し込み下さい



石清水八幡宮

奉斎会大祭と令和七年度総会について

「若宮社」祭典日に合せて奉斎会会員にご案内申し上げます

《若宮八幡社奉斎会 今後の予定》

予定①

親神様である京都石清水八幡宮の末社「若宮社」(当社と同じ仁徳天皇を祀る)の祭典日(七月十八日)に近い日を調整して、令和七年度奉斎会大祭を斎行及び総会を開催します。(会員に限定案内)

予定②

若宮八幡社の恒例祭典(夏と暮れの大祓・観月祭)にご案内申し上げます。(会員以外も参列可能)

予定③

奉斎会総会に併せて講師をお招きして講演会を開催します。(会員以外も受講可能)

予定④

第3回以降の「常若講座」を、年に4回(四月・七月・十月・一月)を目途として、「古事記」の上巻(天地開闢・国生みの段・神生みの段)に続き、初代神武天皇のご即位まで)を当社特製の「神代系図」をもとに勉強します。(会員以外も受講可能ですが、資料代 百円を徴収します)



摂社 若宮社

夏越大祓斎行のお知らせ

どなたでも参列戴けます

令和七年の上半期(一月から六月)の半年間に知らないうちに犯して積み重なった「罪や穢れ」を、清々しくお祓いして暑い夏を乗り切り、暮れまでの残りの半年間を気持ちよくお過ごしになりますか?

【夏越大祓の神事】

◎六月三十日(月)午後三時

凡そ四十五分で終了します

【大茅の輪くぐり】

◎右記の夏越大祓に引き続き行います

「大茅の輪」は七月六日(日)まで設営しておりますので、その間は自由にくぐる事ができます

◎右の神事は、どなたでも自由に参列できますので、ご近所・お仲間お誘いの上お越し下さい(参列無料 予約等不要です)
◎「大茅の輪」の由来は、備後國風土記での説明を、当社HPで、「奉斎会」の項目から資料をダウンロードしてご覧になれます

御創建一、〇四〇年奉祝記念事案について

和漢将軍社七四〇年式年大祭
照月八幡社改修工事

文化財調査に着手 境内マップの作製

《若宮八幡社御創建一、〇四〇年奉祝事案》

◆事案その1

和漢将軍社七四〇年式年大祭

木付初代藩主 木付親重公の御霊を祀る和漢将軍社。本年は七四〇年の節目を迎え、去る三月十七日(月・命日である旧暦二月十八日)に、式年大祭を行いました。十年後の七五〇年式年大祭は、木付氏末裔の方による顕彰会で行います。

◆事案その2

照月八幡社改修工事

飛地境内地の末社「照月八幡社」(鴨川鎮座)の改修工事を篤志者の寄進により、昨年に竣工済み(詳細は二頁に記載)

◆事案その3

文化財調査に着手

令和十七年度の御創建一、〇五〇年奉祝記念事業、(仮称)「若宮八幡社史 編纂事業」に着手するにあたり、当社及び元宮(若八幡本社)の棟札を調査します。



和漢将軍社

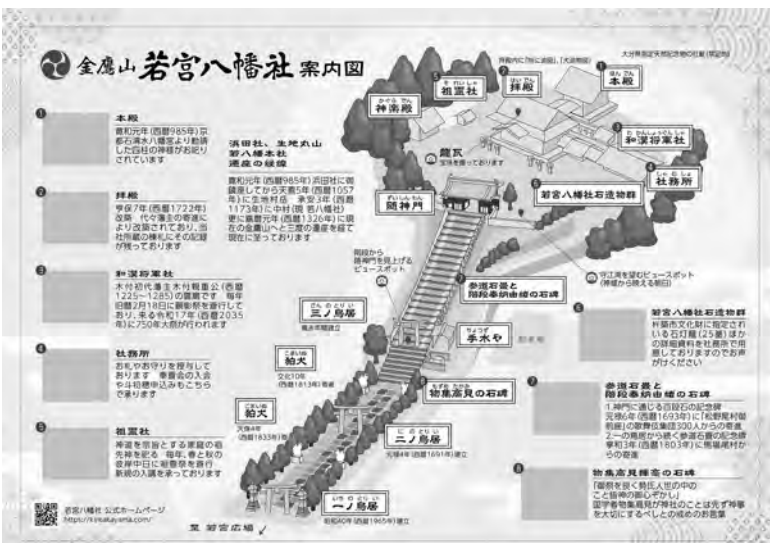
◆事案その4

境内マップの作製

境内をゆつくりと参拝・散策されるにあたり、本殿以下諸建物をはじめ、指定文化財(石灯笼・狛犬・記念石碑などの石造物群)が一目でわかるように作製しました。公式HPからも、ご覧になることができます。本殿裏の社叢は禁足地ですので入れません。



鴨川鎮座 照月八幡社



恒例神事の報告について

新嘗祭・例大祭・令和七年正月の報告と奉献品の顕彰

昨年の秋、十一月二十三日（勤労感謝の日）に斎行された「新嘗祭にいなめさい」、十二月七日・八日に斎行された「例大祭・れいたさい」、また令和七年の正月初詣に至る恒例神事が、好天のもと執り行われましたこと、洵に慶賀の至りに存じ上げますと共に、神様へのご奉献に対する御礼を茲に申し上げます。

【各神事の奉献報告】

新嘗祭は、秋の実りに感謝申し上げる神事で、春の「祈年祭・きねんさい」と対比しているお祭りです。

神事に併せて左記の六名の方々の多大なるご芳志に感謝状の贈呈も行いました。

《新嘗祭 顕彰者》

平田田壽郎 様
元島謙一郎 様
本多 泰久 様
山本 英雄 様
越海 日文 様
阿部 重徳 様



奉献された一对の鈴緒



杵築市弓道連盟会長 工藤庄司様による矢渡し

順不同

《新嘗祭 奉献一覧》
JAおおいた杵築支店 様
大分県漁業協同組合 様
ジエイエイフーズおおいた 様
中野酒造 様
綾部味噌醸造元 様
とまや茶舗 様
松山 堂 様
徳 一 様
フンドーキン醤油 様
杵築営業所 様
（有）高橋水産 様
豊予農場 様
やーまやま 様
（株）絆屋 様
今村農園 様
きつき紅茶 様
オレンジ農園 様
アドバンストメディアカル 様
コミュニケーションズ 様
（有）ふじ環境センター 様
大分県神道青年会 様
大分水産（有） 様
鈴木養鶏場 様
岡本商工（株） 様

（株）光徳産業 様
大黒鮮魚店 様
吉水 謙二 様
阿部 重徳 様
田中 正治 様
八坂 恭介 様
矢野 守光 様
山本 英雄 様
後藤 秀子 様
秋山 太郎 様
稲員 澄雄 様
紀田 兼宣 様
岩尾 隆典 様
吉田 生二 様
宇都宮 学 様
加藤 浩二 様
龍堂 隆 様
徳久 文生 様
清水 正友 様
森 孝一郎 様



池坊別府支部奉納 生け花展示

十二月七日（土）と八日（日）の二日間に亘り、「例大祭・れいたさい」が斎行されました。

初日の十二月七日（土）に例大祭神事に引き続き、神輿渡御（とぎよ）・お下りが行われ、午後には年田神楽社中による「みさき神楽」が奉納されました。

2日目の十二月八日（日）には午後に斗初穂奉納祭に引き続き、神輿渡御（とぎよ）・お上り神事が行われ、2日間に亘る例大祭も無事に取り納められました。

神輿渡御については、宰領（お供者の代表者）会を開催し、一同慎重なる審議を行い、また神輿の担ぎ手



弓道大会競技の模様



お下り後、御旅所での神事

として篤志の方にも加勢を戴きましたこと厚く御礼申し上げます。

神賑行事として、池坊別府支部による生け花展示が2日間に亘り宮司区公民館で奉納された十二月八日（日）には、杵築市弓道連盟による弓道大会が奉納されました。

これ偏に神社関係者を始め、宰領各位また氏子崇敬者の皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

《例大祭 奉献一覧》

JAおおいた杵築支店 様
池坊別府支部 様
（有）ふじ環境センター 様
杵築市弓道連盟 様
森 昭 様
加藤 隆義 様

令和七年の正月は、三が日をはじめ好天にも恵まれ、多数の善男善女の参詣者で境内が賑わいました。

年間を通して、家内安全・交通安全・厄除け・初宮詣をはじめ各種の祈願を承っておりますので、皆様方のお申し込みをお待ち申し上げます。

《正月 奉献一覧》

税理士法人 中津中央
会計事務所杵築支店 様
ティールファシリティーズ（株）様
宮司区氏子中 様
国東観光バス（株）様
白井商店 様
宇都宮行子 様
門 熙 様
かどフラワー 様
（株）山 功 様
（株）民俗工芸 様
菊地塗装店 様
杵築建設（株）様
東照寺征生 様
宇都宮 学 様
平 田 家 様
河野 秀徳 様
河村 全明 様
越海 日文 様
酒井 臣司 様
財前 孝行 様
清水 正友 様
城下町会館 様
高司信太郎 様
高橋 政明 様
田邊 文夫 様
田邊 久年 様
古田 泰久 様
本多 泰久 様
守末 卓広 様
紀田 兼宣 様
河野 秀則 様

ご芳志・ご奉献にお礼申し上げます。順不同

昭和改元百年を考える
大東亜戦争終結八十年に靖國神社と護國神社

大東亞戦争終結八十年に靖國神社と護國神社への参拝勸奨

来年は昭和改元百年を迎えております。令和の現在、往古を偲ぶ意味(?)から『昭和かよ!』と言われて、少し立場が危うい感のある昭和世代ですが、それはさて置き昭和改元百年である来年を紐解いてみたいと思います。

一月五日発行の産経新聞に『昭和一〇〇年 あのととき私は：昭和元年』と題する記事が掲載されておりました。記事には昭和元年（大正十五年）の出来事がよくわかる内容なので、抜粋してご紹介します。

昭和元年（大正十五年）当時の日本の人口は、約六〇、七四一、〇〇〇人と現在のおよそ半分であることから始まって、大正十五年十二月二十五日に大正天皇が四十七歳で崩御され、摂政である皇



大分縣護國神社



みたままつり

太子裕仁親王殿下が踐祚され、昭和に改元されたことを伝えている。

「昭和」の語源は、中国の書物「四書五経」の「百姓昭明、協和萬邦」から採ったもので、「国民の平和と世界各国の共存と繁栄を願う」という意味らしいです。因みに「百姓」とは、現在でいうお百姓さんのことではなく、様々な人々のことで「萬邦」が世界の国々を表しているとのこと。

現在もある某新聞社が「新元号は光文こうぶん」という号外を出して、その後慌てて訂正したようですが、そのような話は令和の現在もあつて、百年経つても世情は変わらないものだと感じる次第です。

更には、一月十日発行の産経新聞では、早坂隆氏の「昭和日本『百年の孤独』を思う」と

題するオピニオン記事が掲載されているので、ご紹介したい。

『百年の孤独』とは、ガブリエル・ガルシア・マルケスの小説のことで、架空の一族の百年に亘る盛衰を描いた物語になぞらえて掲載されている。

記事によると、昭和の幕開け時には、日本はすでに国際連盟の常任理事国であつたがそこから現在に至る百年を振り返り、満州事変、支那事変、大東亜戦争の開戦、昭和二十年の終戦、昭和二十七年のサンフランシスコ講和条約発効に続き、「失われた三十年」という言葉も生まれたが、日本人が「昭和」という改元と共に現在に至るまでの百年間に本当に失つたのは、それまでの日本人が大切に継承してきた「国柄」ではなかつたか……との警鐘を鳴らし、小

説「百年の孤独」に出てきた一族のように滅亡の道を辿ること無きよう、日本は自虐でも自賛でもない、まことの国史を取り戻し、次の百年を生き延びねばならない……と結んでいる。

また今年は終戦八十年の年でもあります。戦後生まれの人口が九割を占めるといわれる今日、戦没者のことを直接知る世代が極めて少なくなつてまいりました。

小生の岳父の父親も昭和二十年三月十七日に硫黄島で散華玉碎し尊い命を捧げられており、先月の八十年祭には御霊が祀られている大分縣護國神社に感謝の祈りを捧げました。

昭和二十年二月十九日に七万人に及ぶ米軍が上陸し、日本側は二万三千人が布陣して迎え撃ちました。5日間で攻略できるという米軍の計算を覆し、栗林忠道陸軍中將率いる日本側は三十六日間に及ぶ激戦の後、三月二十六日の総攻撃で玉砕され、それから八十年が経ち硫黄島での遺骨の収容は進むものの、一万壺千柱の英霊が未だに眠っているとのことでした。

そのため、東京の靖國神社をはじめ全国の護國神社では、参拝の勧奨を行つておられ、先の大戦において祖国と国民を守るため尊い一命を擲^なつた御祭神に心からの感謝を捧げ、一人でも多くの方が父祖の歩みを正しく理解され、我が国の道義があるべき姿に復していくことを祈念致します。

編集後記
紀田宮司のつぶやき

|| いころの杜 ||

▼NHKのBSチャンネルで十年以上続く長寿番組に、火野正平さんが、愛する自転車（チャリオ君）と全国津々浦々を巡る旅番組「こころ旅」という番組があります。▼視聴者から送られてくる手紙に、それぞれの思い出の地を視聴者の代わりに巡る構成（朝は出版・夕方は到着版（とうちゃこ））となっており、旅の途中で食べるお昼ご飯も必ず「美味しい！美味しい！」と言いつつ感謝して食べる姿に見ているこちらにもこやかになりながら、特に自転車旅で出会う女性に接する映像の折りには、○ハラスメントぎりぎりの映像を見て、彼だから許されるのかなあ！とも思いつつも、彼の素晴らしい性格によつて、まことに秀逸な番組として出来上がっており、永らく毎朝楽しみに視聴しておりました。▼残念ながら火野正平さんは、昨年病により天国へと旅立つてしまい、「こころ旅」がどうなってしまうのか心配しておりましたが、いつとき彼と親交のあった芸能人が一週間交代で「こころ旅」が放送され、また彼が今まで巡ってきた「こころ旅」のダイジェスト版の放送に続いて、今春からはその遺志を受け継ぎ女優の田中美佐子さんが「こころ旅」を継続してくれるのとこのでひと安心です。▼視聴者の皆さんからの手紙は、「こころの風景」と題して、色々な場所が紹介されておりますが、時々田舎の名も知れない小さな神社が、その「こころの風景」と

して取り上げられているのを拝見する度に、やつぱり時代がどんなに移り変わろうとも人間・人生にとって神社や仏閣は、大切な存在なのだと痛感するばかりであります。▼それならば当然、杵築市のご出身で現在は、国内外でお暮しになるかたも居られ、その方には若宮八幡社も「こころの風景」として崇敬下さるものと存じ上げますと共に、毎日のように参拝下さる氏子崇敬者各位の思いにも感謝申し上げる次第にございます。▼毎朝午前六時に朝御饗祭を斎行し、氏子崇敬者の安寧と日本国の彌榮を祈念申し上げる身としては、何時いかなる時でも「こころの風景」を訪ねてこられるであろうことを肝に銘じて「ああ また金鷹山にお参りに来よう！」と思つて戴けるように毎日常駐勤務しながら、全国の神社が必ず誰かの「こころの杜」でありますように希いながらも、皆様方をお迎えする次第にございます。▼来年は、昭和改元百年また本年終戦八十年という年に当たることをもちまして、今号では特集の記事を掲載させていただきますましたが、併せて当社の御創建一〇四〇年また末社和漢將軍社の七四〇年の嘉年でもあり、十年後の令和十七年は夫々御創建一〇五〇年大祭と七五〇年大祭を奉祝する行事を取り進めたいと考えております。▼更には十五年後の令和二十二年(西暦二〇四〇年)は皇紀二七〇〇年を迎えることでもあることを鑑みるに、斯界に課せられた責務は少なくないと痛感する日々であります。

(宮司 謹記)